

あなたの高血圧



「本態性」ですか？ 「二次性」ですか？

適切な治療法の選択のために

日本人の約3人に一人、およそ4,000万人の方が高血圧であると言われています。

しかし一口に「高血圧」と言っても、大きく分けて2種類あるのをご存知ですか？

一つが「本態性高血圧」、もう一つが「二次性高血圧」です。この2つは有効な治療方法が全く異なるため、ご自分の高血圧がどちらなのかを知ることは、高血圧治療のキーポイントとも言えます。

今回のヤッ芳では、この2種類の高血圧について、詳しくご説明します。

高血圧の判断基準

高血圧治療ガイドライン 2014
(日本高血圧学会)

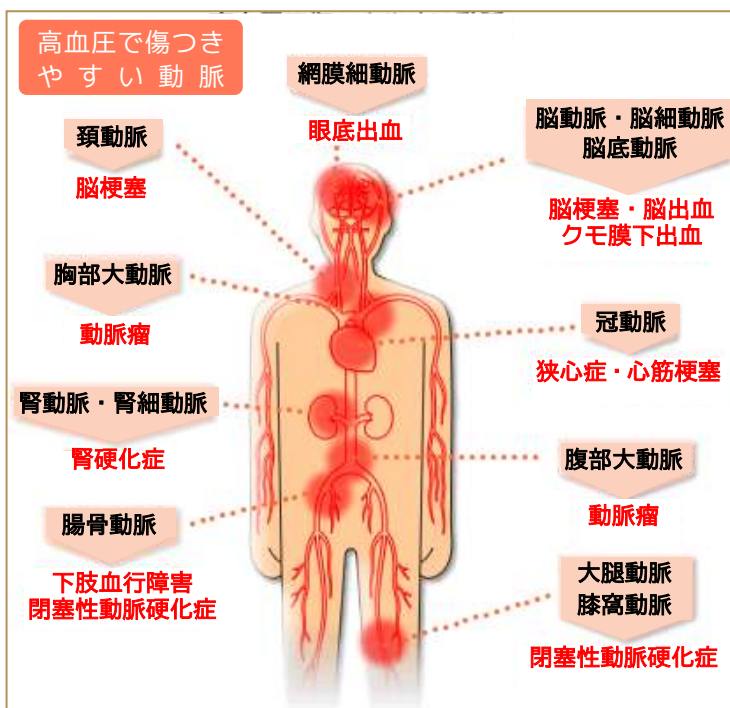
収縮期血圧 140mmHg 以上、拡張期血圧 90mmHg 以上のいずれかを満たす場合

(1) 高血圧とは …血圧を送り出す圧力が高まり、血管が傷んでしまう病気です

血圧とは、心臓から送り出された血液が血管（動脈）の壁に与える圧力のことで、これが正常値よりも高い状態が高血圧です。水圧が高いとホースが傷んでしまうように、血圧が高いと血管が傷み、心臓や血管の病気を引き起こします。（右図参照）

高血圧は「サイレント・キラー（＝沈黙の殺人者）」とも言われ、自覚症状がなくても血管に大きなダメージを与えます。

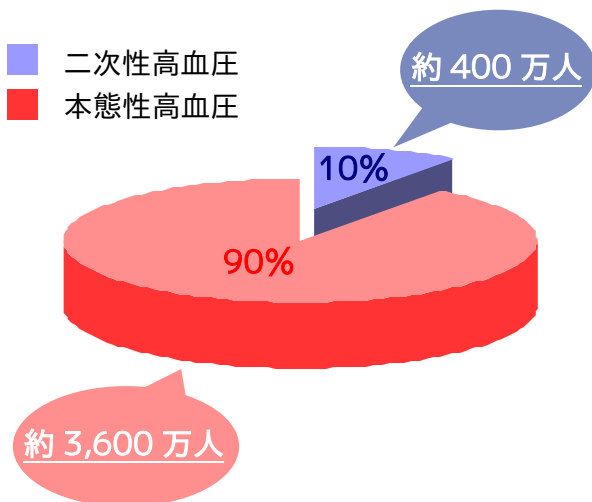
日本における高血圧患者は約4,000万人、約3人に一人と言われています。では、高血圧の原因はどこにあるのでしょうか。



出典：第一三共株式会社ホームページ
『目で見る病気の基礎知識』

(2) 2種類の高血圧 …「本態性高血圧」と「二次性高血圧」

■ 二次性高血圧
■ 本態性高血圧

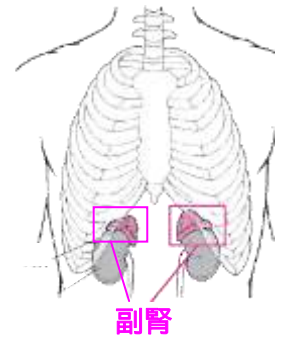


高血圧の約90%は、原因を特定することができない「本態性高血圧」です。食生活、ストレス、過労、肥満、遺伝等、いくつもの原因が重なり合って高血圧になるちされています。

一方、原因を特定できる高血圧が「二次性高血圧」で、特定のホルモンが過剰になり、その結果として血圧が上昇する内分泌性高血圧などが含まれます。内分泌性高血圧には、手術で改善する場合があります。内服薬で治療する場合でも、過剰なホルモンを抑える薬剤を用いるため、本態性高血圧とは治療方法が異なります。このため、**高血圧と診断された場合には、二次性高血圧かどうかの確認が必要です。**

(3) 二次性高血圧の種類と診断 …そのほとんどが「原発性アルドステロン症」です

二次性高血圧の方は、高血圧症全体の約10%、約400万人とされています。
 二次性高血圧の中で、最も患者数が多いのが「**原発性アルドステロン症**」で、日本における推定患者数は200~400万人とされています。「**原発性アルドステロン症**」は、副腎からアルドステロンというホルモンが過剰に分泌されることで高血圧になる病気です。このアルドステロンは、動脈硬化を促進させる因子として知られています。この病気では、脳卒中や心肥大、心筋梗塞、進行性腎障害などの合併症が、本態性高血圧と比較すると多いことが分かっています。若いうちに高血圧症を根治できれば、脳卒中や心筋梗塞等が予防できると考えられています。



二次性高血圧の種類

主な病名	ホルモンと原因	現れる症状	備考
原発性アルドステロン症 (略称: PA)	アルドステロン/ 副腎から過剰分泌	高血圧	二次性高血圧のほとんどを占め、高血圧以外に症状がない場合が多い
クッシング症候群	コルチゾール/ 副腎 or 下垂体から過剰に分泌される	高血圧、糖尿病、肥満	ホルモンが大量に作られると皮下出血(あざ)や、毛深くなることがある
褐色細胞腫	カテコラミン/ 副腎・神経組織から過剰に分泌される	高血圧、動悸、不安感、ほてり	高血圧以外に症状がない場合もある
腎血管性高血圧	レニン/ 腎動脈が細くなることで過剰に分泌される	高血圧	血管の炎症や血管壁の変化によって発生する場合(若い女性に多い)と、動脈硬化によって起こる場合(中年以降)がある

※上記の他、甲状腺ホルモンの異常(甲状腺機能亢進症)や成長ホルモンの異常(先端巨大症)でも高血圧をきたすことがあります。



◆二次性高血圧のチェック方法

採血・採尿によるホルモン測定と**腹部CT**などを行い、異常が見られればさらに詳しく検査を行います。

(4) 原発性アルドステロン症への取り組み …専門医療チームを結成しています

「**原発性アルドステロン症**」の詳しい情報は、病院ホームページにもあります <http://www.houju.or.jp>

原発性アルドステロン症の診断と治療に対して、当院では専門医療チームを結成して取り組んでいます。また、診療のスケジュールが書かれたパンフレット(右参照)を作成しました。

当院では、ご自分の高血圧が「本態性」か「二次性」なのかを、一人でも多くの方に知っていただき、適切な治療法を選択できるように努めています。



内分泌代謝内科医	原発性アルドステロン症はもちろん、糖尿病・甲状腺といった内分泌代謝疾患を中心に担当します。
AVS 検査チーム	内分泌代謝内科・放射線科の協働作業体制が確立しています。
腎・副腎外科チーム	腹腔鏡下副腎摘出手術のみならず、腎臓疾患に対しても腹腔鏡下手術を行っています。外科・泌尿器科の合同チームです。

【二次性高血圧・原発性アルドステロン症】
 についてのお問い合わせ先

ピーエー
芳珠PAコールセンター (企画課内)
 ☎0761-51-5551(代)